

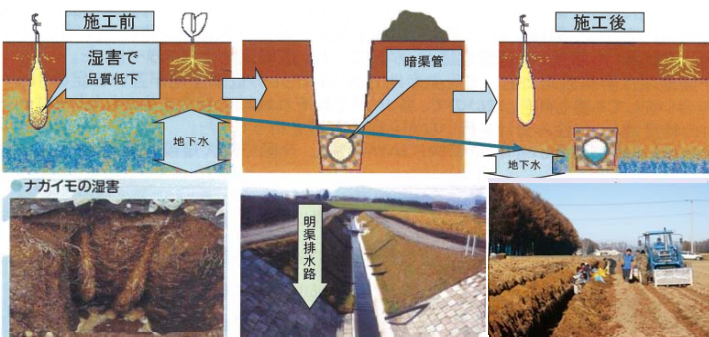
農業王国“とちち”の産業活性化へ向けて

- 食料供給基地としての持続的発展
- 北海道型地域構造の保持・形成
- 強靱で持続可能な国土づくり

「世界の北海道」を目指して
—北海道総合開発計画—

- 十勝は日本を代表する畑作酪農地帯で、食料自給率は全国の39%に対し、十勝では約1,100%（北海道で208%）と一大食糧基地を形成しており、平成28年の管内JAの取扱高は約2,900億円となっています。
- 十勝で北海道内の約80%を生産する長いもは国内消費だけではなく、台湾やアメリカ、シンガポールにも盛んに輸出され、近年では中札内のえだまめも香港、ドバイ、ロシアなどに輸出が拡大しており、食の海外展開を図っています。また、小麦、てんさい、小豆、ばれいしょ等は作付面積日本一となっています。
- 十勝管内が長いもの一大産地となった背景には、帯広開発建設部が進めてきた農業農村整備事業や治水事業などの基盤整備が大きく貢献しているほか、道路事業や港湾事業による物流ネットワークの整備も長いもの生産や移出・輸出に役立っています。

農業農村整備事業の実施



農業農村整備事業（直轄明渠排水事業）により、畑の中の地下水を低下させ湿害が減少したことから、長いもの品質と収穫量が向上しました。

収穫された長いもは、平成23年10月に札幌～帯広間が全線開通した北海道横断自動車道や国道を利用して苫小牧港や小樽港に運ばれます。そこから、神戸港や横浜港を經由して台湾やアメリカに輸出されています。



台湾で長いもは山薬と呼ばれ、薬膳料理で食べる習慣があります。

苫小牧港・小樽港へ

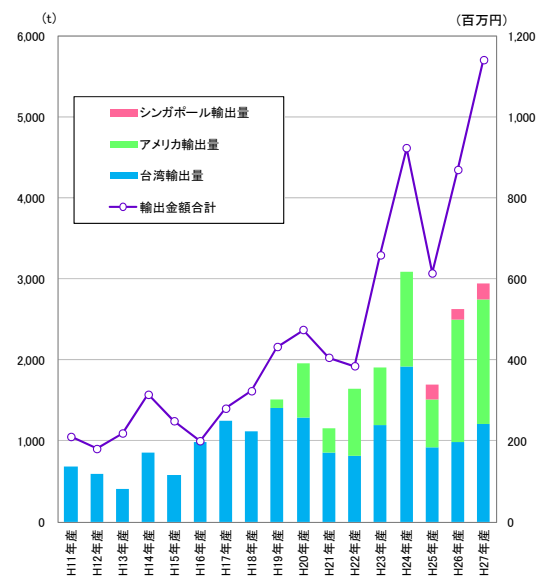


道路整備事業の実施

高規格道路の開通区間延長により、肥料等の物流効率化や地域間交流の活性化に寄与しています。
更別IC～忠類大樹IC H27.3.15開通

海外から十勝港へ肥料や飼料等が輸入されており、そこから十勝管内の生産者等に国道や高規格道路を利用して運ばれています。

長いもの輸出数量と輸出金額の推移



出典：帯広市川西農業協同組合

治水事業の実施



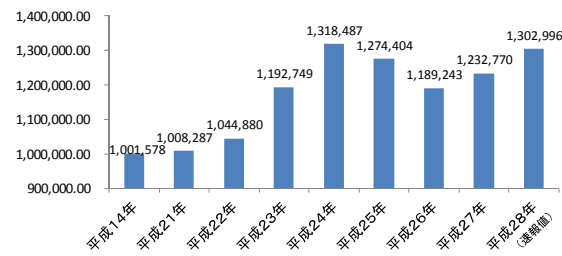
札内川ダムや治水事業による洪水調整機能により、長いもの収穫量増加に寄与しています。

十勝の作付け面積日本一の主要作物

	十勝の全国シェア (%)	北海道の全国シェア (%)
小麦	21.0	57.5
てんさい	44.6	100.0
小豆	50.5	80.2
ばれいしょ	28.1	65.8
いんげん	77.9	93.6

※H27年産、但し、ばれいしょはH26年産

十勝港貨物取扱量の推移



資料：十勝港統計年表（広尾町）